

養鉄トレクル、池田まるっと体験交流ツアー創出プロジェクト

1 目的

池田町ならではの体験交流ツアーをつくったり、自由に町内を巡れるよう電動アシスト付きレンタサイクルを整備したりすることで、年間を通じた観光客数を確保し、地域経済の活性化を目指す。

2 進捗状況

○平成 28 年 7 月 16 日から、レンタサイクルサービス(養鉄トレクル)が開始。
⇒レンタサイクル利用者の利便性向上のため、平成 28 年秋頃、ナビアプリ(カーナビの自転車版)を整備予定。

⇒利用客増加を目指し、7月中旬に、レンタサイクルと養老鉄道サイクルトレインを組み合わせた新たなレジャーの提案・実施を公募する予定。

○池田町内での取組として、お茶関係者と協力をしながら、サイクリングとお茶等の体験プログラムを組み合わせた体験交流ツアーを企画。
⇒平成 28 年 7 月 22 日に、お茶を活用した体験交流ツアーづくりの先進地である京都府和束町を視察予定。

⇒従来から町内で活動している観光ボランティアの方々と、昨年、ガイド育成講習を受けた方々の協力を得ながら、体験交流ツアーを実施することを目指す。

⇒さくら会館で、お茶の入れ方や味を楽しむ体験交流プログラムを実施できるよう、改修工事を計画。現在、耐震診断を実施中。

3 費用(合計 55,364 千円 ※揖斐川町分 14,850 千円含む)

レンタサイクルの整備 22,020 千円
ナビアプリの開発 9,000 千円
養鉄トレクルを活用した新たなレジャーの提案 3,000 千円
体験交流ツアーの設定委託費 1,080 千円
体験交流ツアーの PR 費 1,000 千円
さくら会館の耐震診断、改修工事費 14,000 千円
備品購入(野点傘) 300 千円
著名人による PR 活動委託費 3,000 千円
パッケージデザイン委託費 1,000 千円
ガイド継続学習費等 964 千円

4 目標値(KPI)

レンタサイクルの利用人数(平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月) 1,260 人
⇒ 平日利用率 25%、休日利用率 55%と設定。
西濃地域の他市町へのレンタサイクル波及台数(平成 32 年 3 月) 50 台

<論点>

・レンタサイクルの利用率を高めるために、できることは何か。

■ ゴールイメージ

参加者に楽しんでいただけるパック商品
4000円～/人で販売

体験・交流 プログラム

お茶摘み	ブルーベリー
お茶揉み	ラベンダー
紅茶づくり	パラグライダー
お茶工場見学	ガイドとのふれあい

自転車
必須

温泉
お土産

食

- ※ 体験・交流プログラムは、常時ではなく、開催可能な日時に開催
例. お茶摘み、お茶揉み等はお茶関係者に確認 → 年間10日～20日程度??
- ※ 体験・交流プログラムがない時期は、自転車利用者は、推奨コース(モニターツアー時の山麓コースと町中コースが土台)を参考にしつつ、自由に観光スポットを巡る。